CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE 広島 2016年版

（仮称）段原・比治山公園プロジェクト 新築工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。　　欄に数値またはコメントを記入

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳								
■1.「地球温暖化対策」の推進											
1.1　建物の熱負荷抑制											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	1.0	0.25	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能	
	4.0	0.75	LR1	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制					
小計	3.3	0.14									
1.2　自然エネルギーの利用											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用					
小計	3.0	0.05									
1.3　設備システムの高効率化											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.1	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化					
小計	3.1	0.26									
1.4　設備システムの効率的運用											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング	
	0.0	0.00	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制	
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.1	モニタリング	
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.2	運用管理体制	
小計	3.0	0.10									
1.5　資源・マテリアル対策											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水			
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無	
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無	
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			
小計	3.1	0.31									
1.6　ライフサイクルCO2排出率											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください	3.5	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮					
小計	3.5	0.13									
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	**3.2**	**0.68**									
■2.「ヒートアイランド対策」の推進											
2.1　温熱環境の向上											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	2.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出					
	3.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上			
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善			
小計	2.5	0.97									
2.2　交通負荷抑制											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制	
小計	4.0	0.03									
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	**2.6**	**0.17**									
■3.「長寿命化対策」の推進											
3.1　耐用性の向上											
（コメント）　※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性（建物のこわれにくさ）	
	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能	
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数	
	2.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	2.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔	
小計	3.0	0.44									
3.2　設備の更新性											
（コメント）　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性	
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性	
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保	
小計	3.0	0.56									
3.「長寿命化対策」の推進の評価	**3.0**	**0.14**									
■重点項目の総平均（上記3項目）	**3.0**										